

油症患者における口腔細菌数に関する検討

研究分担者 川崎 五郎 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 准教授

研究要旨 油症患者の高齢化に従い、今後、歯性感染症や誤嚥性肺炎の発症が増加することが予想される。歯性感染症や誤嚥性肺炎には口腔内細菌叢が関与している。今回は、口腔細菌数を調べるため細菌数計測器を用いて研究を行った。長崎県地区における油症の認定者と未認定者を対象に、歯科検診時に任意に選んだ患者について測定し検討を行った。今回の結果では、測定値は 5.21×10^5 から 6.23×10^7 とばらつきはみられた。測定値に関しては地域間で差がみられたが、や認定者未認定者間に有意な差は認められなかった。

A．研究目的

油症患者における口腔領域の症状として、歯肉および口腔粘膜の色素沈着が主症状として挙げられるが、その他、口腔乾燥症や歯周疾患を訴える患者もしばしばみられる。これまで、口腔乾燥や口腔カンジダに関する検討を行ってきたが、一部には口腔清掃状態不良の患者が認められる。油症発症から年月が経ち、油症患者の高齢化もめだつようになってきた。歯性感染症や誤嚥性肺炎は、基礎疾患など宿主側の因子も重要であるが、口腔清掃状態や口腔細菌叢などの因子も重要な役割をはたす。これまでに油症地区における口腔清掃状態や口腔細菌に関する研究はほとんどみられない。本研究では、長崎県油症検診において口腔細菌数を測定し各種の臨床因子との比較を目的に検討を行った。

B．研究方法

平成 29 年度長崎県地域における油症検診において、通常の歯科検診を行うことのできた患者の中からランダムに測定する患者を選んだ。その際、義歯装着の有無、口腔乾燥、その他口腔内で気になる事項について問診を行った。測定は、細菌カウンターを用いて舌背を綿棒で拭い、測定した。

(倫理面への配慮)

本研究の解析結果においては、個人が特定できるようなデータは存在しない。

C．研究結果

平成 29 年度長崎県油症検診で歯科検診を行った患者を対象者とした。内訳は長崎地区 39 名、五島玉之浦地区 13 名、五島奈留地区 10 名の計 62 名であった。性別では男性 27 名、女性 35 名であった。年齢別では 18 歳から 88 歳で平均 64.5 歳であった。対象者全員の測定値は 5.2×10^5 から 6.2×10^7 で、平均値は 9.5×10^6 であった。地域別では、長崎地区 7.4×10^6 、玉之浦地区 17.4×10^6 、奈留地区 7.5×10^6 で地区別では玉之浦地区の値が高かった。また、年齢別別では 18 歳から 63 歳では、平均 9.9×10^6 で、65 歳から 88 歳の平均値は 9.2×10^5 で、有意差は認められなかった。性別では男性 6.0×10^6 、女性 9.5×10^6 で男女間の有意差はみられなかった。油症の認定および未認定別では、認定者が 38 名で未認定者が 24 名であった。測定値は認定者 8.7×10^6 、未認定者 10.7×10^6 であった。義歯装着の有無では、義歯装着者が 8.5×10^6 、未装着者が 9.8×10^6 で、両者間

に有意差はみられなかった。

D．考察

油症発症当時から、歯科口腔外科的症状として、口腔粘膜色素沈着、口腔乾燥症、歯周疾患などがあげられている。これまで、口腔湿潤測定器ムーカスを用いて口腔乾燥状態を調べた。さらに一部の患者で舌苔がみられたためカンジダ簡易測定キットを用いてカンジダの検出を行い口腔乾燥との関係について検討してきた。それらを検討していくなかで、今後、患者の高齢化が進むため口腔ケアについて検討する必要があると考えた。そのため、まずは油症地区における患者の口腔細菌数を調べることにした。

今回、細菌カウンターを用いて計測を行ったが、これまで同機器を用いて周術期の細菌数の変化と術野の治癒具合の相関性、誤嚥性肺炎との相関性について検討し、細菌数の変化をみることは有効であることを確認している。

今回の研究結果では、地域間での差がみられた以外、測定値に有意な差はみられなかった。症例はランダムに選んだが、集団検診時の都合上、口腔清掃状態について客観的評価することが困難であった。今後は口腔清掃状態の検討が必要であると思われる。

血中の PCB 濃度と口腔細菌数が相関していることは考えにくいだが、油症患者の高齢化や、都市部に比べると離島で歯科治療が受けにくいことを考えれば、油症地区における口腔ケアと口腔細菌について調べておくことは有益であると思われるし今後口腔清掃指導にもつながるものと思われる。

今後は、油症患者における複数年度での計測、糖尿病などの全身疾患との関わりなどについても検討していく予定である。

E．結論

油症患者における口腔細菌数を客観的に

評価するために細菌カウンターを用いて検討をおこなった。地域間で差がみられたが、性別、年齢、認定未認定で有意差は認められなかった。

F．研究発表

学会発表

なし

G．知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

なし